



木曾川下流自然観察会

<http://owari.eco.coocan.jp/kisogawa.html>

日時 2023年10月8日(日) 9:30~12:00(曇り)

参加者 一般:3名

指導員:4名

テーマ 秋の稔りを楽しもう

秋は稔りの季節ということで、木や草の実を中心に見て回りました。

タワーのすぐ東にアキグミがたわわに実をつけていました。まだ完熟という状態ではありませんでしたが、赤く色づいた実の甘みと渋みを体験しました。

ムクノキは未熟な緑色の実から完熟の黒藍色の実、さらには水分が飛んで干しブドウ状の実までついており、これもちよっと味見をしました。

エノキは橙色の実を探しましたが、時期が過ぎたのか果皮は黒く、乾燥して味見はできませんでした。一方、アケビの実は緑色で熟すまでに1週間かかりそうです。

大野極楽寺公園のフェンスにはスズメウリの蔓が這い、キュウリの風味が感じられる実が並んでぶら下がっていました。

昆虫はクズの葉にいたオジロアシナガゾウムシ、翅を広げたコムラサキなどを見た後、アキアカネが里に戻って来ていないか探したところ、葉の落ちた桜の梢に止まっている数頭を確認できました。他にマユタテアカネも少数見られましたが、アカトンボの仲間は少な目でした。

また、南に渡っていく途中のコサメビタキらしい野鳥の姿が見られました。

川原も堤防も草刈りがされたばかりで、カワラケツメイが生えていた辺りもすっかり丸坊主になっていました。種が熟す前に刈られたので、来年生えて来るかどうか心配です。

今年は気温が高かったせいか、キンモクセイの花が未だですが、蕾が膨らみ始めていました。また、紅葉もハナミズキの葉が濃い赤色に色づき始めていました。9月までは暑い日が続いていましたが、ここ数日急に気温が低下し、秋らしい気配が感じられるようになってきました。(報告:齋竹)



(アケビの実を観察:まだ未熟でした。)

<その他観察できたもの>

実:センダン、ハマナス、マテバシイ、サンシュユ、ガマズミ

花:ハナソノツクパネウツギ、サルスベリ、ガガイモ、ツルドクダミ、イタドリ、キダチコンギク、キクイモ、ヤブマメ、アカネ、メリケンムグラ

鳥:トビ、ヒヨドリ、キジバト、メジロ(声)、シジュウカラ(声)、コゲラ(声)、モズ(声)

虫:シオカラトンボ、キタキチョウ、ツマグロヒョウモン、ヒメジャノメ、ヤマトシジミ、ウラナミシジミ、ホシホウジャク、ヤマトカギバ、コベニスジヒメジャク、ヒメエグリバ(幼)、マルカメムシ、アオバハゴロモ、外来アミガサハゴロモ、ツチイナゴ、コバネイナゴ、オンブバッタ、アオマツムシ、エンマコオロギ(声)、セイヨウミツバチ

その他:ナガコガネグモ



たくさん付いたアキグミの実



ぶら下がったスズメウリの実



オジロアシナガゾウムシ



翅を広げていたコムラサキ